

令和元年度

千早赤阪村立学校園

評価報告書

学校園名（千早小吹台小学校）

校園長名（ 當麻裕彦 ）

1. 教育目標

「やさしさと笑顔いっぱい为学校」をめざして

「豊かな心」・「確かな学力」・「健康な身体」

人の気持ちがわかる子・すすんで学ぶ子・元気でたくましい子

- ① 「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり
- ② 学力向上の取り組みの充実
- ③ 開かれた学校づくり

2. 経営方針

① 「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり

- 集団の中で一人ひとりがお互いを尊重し、ちがいを認め合い、自尊感情を高める学級経営、学級集団づくり、異年齢集団づくりに努める。
- すべての子供が学びやすい千早小吹台小学校をめざして。ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」と「学校経営」の推進。
- 「学級づくり」「授業づくり」スタンダードの活用や児童についての「気づき」を大切にし、一人ひとりの児童の教育的ニーズに応えられる学校体制の構築を行う。

②学力向上の取り組みの充実

○授業の質を向上させる

・授業規律の定着

授業スタンダードを示し、「めあて」「自分の考え」「ふりかえり」を大切にしたい授業づくりを行う。また、「学習用具のきまり」プリントによる各学年での取り組みにより、学びに向かう力を高める。

・言語活動の充実、「伝える力」「聴く力」の育成 外国語教育の充実

疑問に思ったことなどを動機に「友だちはどう考えているだろう」「書物に書かれていることは何だろう」など対話を通して思考を活性化し、「できた」「そういうことか」といった学びの実感を持たせ、新たな課題が湧いてくるような学びの過程の繰り返しで深い学びがある授業づくりを行う。

本校が積み重ねてきた英語教育は、本の執筆により全国的に知られることとなった。研究の成果を全国の小学校外国語教育のために役立ててもらうことは今年度の本校の使命である。

○自学自習力をつける

自主学習ノートの学校としての導入と活用で自学自習力の定着と質の向上をめざし、普段のノート指導も充実させる。

③開かれた学校づくり

○郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、郷土学習、歴史学習、金剛山や棚田に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。

○「学校支援地域本部」の活動を活発にし、地域住民や保護者にも積極的に教育活動に参画してもらうことを通じて学校の理解をより広めていく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	1. 「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり 2. 授業の質の向上 3. 食育および食物アレルギー対策の充実 4. 郷土にちなんだ学習の実施
D	具体的な取り組み内容	1-①ユニバーサルデザインに基づいた授業展開 -②ユニバーサルデザインチェックシートの実施 2-①授業規律の定着…授業スタンダードを示し、「めあて」「自分の考え」「ふりかえり」を大切にしたい授業を行う。 -②「学習用具のきまり」プリントによる各学年での取り組み。 -③言語活動の充実「伝える力」「聴く力」の充実…学習での疑問を友達との対話を通し思考を活性化し、「分かった」といった学びの実感を持たせ、更に新たな課題が湧く様な学びの課程の繰り返しで、深い学びがある授業づくりの実施。 -④外国語活動の充実…本村・本校の積み重ねた英語教育を、全国の小学校英語教育に役立ててもらおう。 3-①アレルギー対応面談の実施 -②夏季校内研修（アレルギー対応）の開催 -③食育の実施…給食時指導及び授業としての食に関する指導 4-①外部講師（千早赤阪村関係者）による出前授業等の実施 -②地域学習を通して村の特産物、施設、名所、名跡などを学ぶ
C	自己評価／成果と課題	1-①…研究授業での指導助言者の高評・・・・・・・・・・◎ -②…ユニバーサルデザインチェックシートの考察・・・・・・・・○ 2-①…「算数科」アンケート（児童）の実施・考察・・・・・・・・△ -②…職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○ -③…「算数科」アンケート（児童）の実施・考察・・・・・・・・○ …研究授業での指導助言者の高評・・・・・・・・・・・・△ -④…研究授業での指導助言者の高評・・・・・・・・・・・・○ 3-①…担当者の反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ …保護者の感想・要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ -②…研修内容を受けて校内体制の見直し・・・・・・・・・・・・◎ …職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ -③…授業時数・進捗状況調査での把握・・・・・・・・・・・・◎ 4-①…教職員の反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○ -②…授業時数・進捗状況調査での把握・・・・・・・・・・・・◎
A	次年度に向けて	1 支援学級で取り組んでいる、ユニバーサルデザインに基づいた環境整備・授業展開を、次年度も通常学級に浸透させ、その段差を更に解消する。 2 学習用具のきまりを全ての児童に徹底できる様、継続的に指導する。新学習指導要領の全面実施に伴い、指導計画の検証をする。 3 食物アレルギー事故・ヒヤリハットがない様、保護者等と綿密な連携をとる。学力・体力向上につながる食育の充実を図る。 4 村第4次総合計画により整ったコンピューター環境を活用し、学力向上への取り組みや郷土学習の充実を図る。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

II 安全安心な学校づくりの推進		
P	重点目標	1. 人権意識を大切にした学校・学級経営 2. いじめ防止の取り組み 3. 防災教育の充実
D	具体的な取り組み内容	1－①人権教育年間指導計画に基づいた人権教育（人権ウィーク・人権教育交流会）の実施 －②人権教育に基づいた授業展開 2－①「心と体と生活アンケート」 －②情報交換を通して全教員の情報共有と指導 －③SC・SSW・村家庭児童相談員との連携 3－①防災アドバイザーによる学校防災体制の点検 －②村防災教育実践委員会での指導内容の実践 －③避難訓練の工夫改善 －④各学年防災学習の実施
C	自己評価／成果と課題	1－①…職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ －②…研究授業での指導助言者の高評・・・・・・・・・・・・・・・・○ 2－①～③…アンケート実施による状況把握・・・・・・・・・・・・◎ …事案発生時の全教職員や外部機関との連携による対応・・・・◎ …未然防止に向けた学級・人間関係づくり・・・・・・・・・・○ 3－①…防災アドバイザーの高評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ －②…職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ －③…職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎ －④…職員会議等での反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◎
A	次年度に向けて	<p>次年度も、重大な生徒指導事案の発生がないように、人権意識を大切に した学校・学級経営の実践と、組織的ないじめの未然防止体制の構築、ま た自己肯定感が向上し児童の成長を促せる学級経営を行える様、外部研修 等の内容と全児童の情報を、教職員が共有できる校内体制を維持できるよ うに努めたい。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

Ⅲ 学校及び教職員の資質の向上		
P	重点目標	1. 各教育課題に対する組織としての対応実践
D	具体的な取り組み内容	1-① 3部会 ワーキンググループ 不登校対策委員会等
C	自己評価／成果と課題	1-①…各行事、年間の反省・・・・・・・・・・○ …学校評議会での講評・・・・・・・・・・○
A	次年度に向けて	<p>今年度は、本年4月からの新学習指導要領全面実施に備えて立ち上げたワーキンググループ（外国語、プログラミング教育、本校の特色である地域との連携を円滑に推進する「学校地域支援推進本部」）が、効果的に機能した。今年度の反省を受けて、次年度も作成したカリキュラム等の効果検証の為、活動回数等柔軟に継続して運営していく。</p> <p>学校評議員会では、経験の浅い教職員への指導について話題に挙げた。</p> <p>学識者からの意見を真摯にとらえ、組織を運営する中で、経験の浅い教職員への校内サポートや経験を積ませる必要性を再確認した。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		その他 開かれた学校づくり
P	重点目標	1. 「学校支援地域本部」活動の推進
D	具体的な取り組み内容	1-①各部会・学年による活動・授業支援等の実施
C	自己評価／成果と課題	<p>1-①…学校アンケート（保護者）・・・・・・・・○ …学校支援地域本部 Co 等の反省・・・・・・・・◎</p> <p>各授業・活動の実施に向けて、地域の団体との連絡調整等がスムーズにいった。</p> <p>5・6年の家庭科・音楽の授業支援に、多くの方が入ったことで、児童の作業や活動が進み、安全面も確保され、非常に効果が得られた。</p> <p>クラブ活動では、支援員の得意とする内容を活動に入れる事も出来た。</p> <p>本校の学校支援地域本部の取り組みを村全体に広げる構想による村立学校教職員、PTA向けの研修会を持つことができた。</p>
A	次年度に向けて	<p>今年度の取り組みの維持と、新学習指導要領の全面実施による新たな教育課題（SDG s 等）に連携できる地域の方と連携・実践が出来るか、人材・団体を開拓していく。</p> <p>地域コーディネーターを中心とした学校支援地域本部組織のより一層の充実</p>

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

- ・各欄「自己評価／成果と課題」の通り

【外部アンケート等】

保護者による学校診断アンケート (A) 児童アンケート (B) より

I 学力向上と教育力の充実 (参考)

2. 授業の質の向上

- ・授業は工夫されていてよく分かる (A) 肯定的評価 → 94.5%
- ・あなたは授業の内容がわかりますか (B) → 96.5%
- ・あなたは2人以上の先生 (TT)、少ない人数～ (習熟度) について
どう思いますか (B) → 94.7%
- ・教科によって担任以外の先生 (専科制) ～について
どう思いますか (B) → 98.2%

II 安全安心な学校づくりの推進

3. 防災教育の充実

- ・子どもの安全に日頃からよく気配りしている (A) 肯定的評価 → 100%

III 学校及び教職員の資質の向上 (参考)

1. 各教育課題に対する組織としての対応実践

- ・学校を訪問した時や電話での職員の対応は丁寧で誠意がある (A) → 100%
- ・職員が保護者に応対する時、丁寧で誠意がある (A) → 96.4%

その他 開かれた学校づくり (参考)

1. 「学校支援地域本部」活動の推進

- ・学校は、保護者・地域の願いに応えている (A) 肯定的評価 → 98.2%

5. 学校園関係者評価

【学校評議員会（6月27日・2月27日開催 及び年間を通じての提言）より】

『外国語教育』についての意見聴取

新学習指導要領による小中英語教育の変容についての説明。過去に我々が受けてきた英語の指導方法ではなく、今まで村が進めてきた小学校英語活動（聞く・話すを大切にしてきた外国語）に加え、文字・単語を書き写す「書く」活動や「読む」活動を充実していただきたい。

村の子どもたちはリスニングの力が高いと聞いている。これは、小さい時から聞きなれているからだと思う。

『支援教育』についての意見聴取

「学習用具のきまり」プリント等、写真による例示は、子どもたちみんなが分かりやすく、助かる。

支援学級教室は、子供が集中して学習・活動ができる空間になっている。通級指導教室の体制も整っている。知っている子どもも、学校や放課後勉強室へ意欲的に行っている。

『学校支援地域本部』についての意見聴取

地域の方の学校の教育活動への協力意識が大きい。

昨今、子どもたちの安全をおびやかす事件が多発しているが、地域全体で子供を見守ってくれている。

6. 第三者評価

【地域のボランティアの方より】

○学校でボランティア活動をして子どもと関わらせてもらうことで、こちらも元気をもらえる。

○子どもと関わる機会を与えてもらっていることが生きがいになっている。うれしい。

○地域に学校があって、子どもの声が聞こえるというのは地域の活性化にはとてもよい。